大学生におけるデート DV 経験と性役割意識との関連

○中川内由梨¹・高橋稔²・内山絢子²

(¹ 目白大学大学院心理学研究科・² 目白大学)

キーワード：デート DV 性役割意識

The gender stereotypes and dating violence in college students

Yuri NAKAGAWACHI¹, Minoru TAKAHASHI² and Ayako UCHIYAMA²

(¹ Graduate School of Mejiro, ² Mejiro Univ.)

Key Words: dating violence gender stereotype

目的

デート DV とは、親密な異性間で生じる暴力のことである(山口, 2003)。従来のデート DV 研究では、男性加害者が圧倒的に多いとされ、その背景要因として固定的な性役割意識の高さが関係していることが示されてきた(小泉・吉武, 2008)。しかし、近年のデート DV 実態調査では男性の被害実態も明らかにされ始め、デート DV は男女双方が加害者にも被害者にもなりうるということが指摘されるようになってきた(上野・松並・青野・赤澤・井ノ崎, 2012)。したがって、今後は女性のデート DV 加害に影響する要因についても詳細に検討していく必要があると考えられる。一方で、性役割意識に関する研究では、男女によって性役割意識の形成要因が異なることが示されている。藤田・米澤(2009)によると、男性は親から、女性は周囲から性役割モデルを学ぶとされ、男性のほうがより親の性役割モデルを世襲しやすいことが示唆されている。しかし、このような性役割意識の形成に関する男女差が、デート DV 経験にどのように影響を与えるかについては今のところ検討されていない。そこで本研究では、大学生のデート DV 経験についての実態調査を行うと共に、性役割意識がデート DV 経験に及ぼす影響について、親の性役割意識に対する認知も含めて明らかにすることを目的とした。

方法

(1)質問紙：親密な異性間での暴力行為の経験(松野・秋山(2009)より、身体的暴力・精神的暴力・経済的暴力・交友監視・性的暴力を含む 36 項目について、現在または過去の恋人間における加害経験と被害経験の頻度を尋ねた。性役割意識：「現代青少年の発達課題に関する調査研究」(総務庁青少年対策本部, 1996) で用いられた性役割意識に関する項目(「女性は子供ができたなら家事や育児に専念すべきだ」など 8 項目)を用いて、本人の固定的性役割意識の高さおよび、父親・母親の固定的性役割意識の高さを本人がどのように認知しているか尋ねた。

(2)対象者：都内大学生を対象とした。有効回答者 184 名のうち、これまでに異性と交際経験のある 151 名(男性 76 名、女性 75 名、平均年齢 20.08 歳、SD=2.01)を対象とした。

結果と考察

加害・被害経験の有無ごとの人数を Table1 に示す。人数の偏りについて χ^2 検定を行った結果、有意差が見られた($\chi^2 = 84.87, df=1, p<.001$)。このことから、男女双方が加害者にも被害者にもなりうるということが示され、上野ら(2012)を支持する結果となった。加害・被害どちらも経験のある者を以下「デート DV 群」とする(男性 56 名、女性 52 名)。デート DV 群において、最も経験の多かった暴力行為は、加害・被害とも

に「日に何回もメールや電話をする」であり、次いで「異性と一緒にいたり、話したりすると嫉妬する」であった。これらの行為は若者の間で一般的に行われ、暴力行為と認知されていないと考えられる。次に、デート DV 群における本人および両親の性役割意識とデート DV 経験の関係を検討するため、加害経験を従属変数として男女別に重回帰分析を行った(Table2)。その結果、女性においてのみ、加害経験に対し、本人の性役割意識が正の影響を、母親の性役割意識が負の影響を及ぼしていた。被害経験を従属変数とした分析も行ったが、男女いずれも本人および両親の性役割意識からの有意な影響は示されなかった。この結果から、本人および両親の性役割意識が加害経験に対して及ぼす影響には男女差があることが示唆されたが、決定係数(R^2)が低いため、その影響は小さく、デート DV には他の要因による影響が大きいものと思われる。これまでの研究から、家庭における DV 経験(森田, 2010)や愛着(井ノ崎・上野・松並・青野・赤澤, 2012)、自己肯定感の低さ(伊田, 2010)などの様々な要因が示唆されており、今後はより包括的にデート DV 要因を検討していく必要があると考えられる。

主な引用文献

藤田絵理子・米澤好史(2009)．デート DV に影響を及ぼす諸要因の分析と DV 被害認識の明確化による支援の試み
和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 19, 9-18.

Table1 加害経験・被害経験の有無ごとの人数

加害経験	被害経験		合計
	有	無	
有	108	10	118
無	4	29	33
合計	112	39	151

$\chi^2(1)=84.87, p<.001$

Table2 男女別の重回帰分析結果

従属変数：加害経験

	男性	女性
	β	β
本人性役割意識	.04	.33*
父親性役割意識	.08	.20
母親性役割意識	-.25	-.41**
R^2	.04	.12*

* $p<.05$, ** $p<.01$